

阿寒湖畔自然体験活動～5年生（9月9日）

9月9日に5年1組が、附属釧路義務教育学校の「学校林」～阿寒湖畔の森に出かけました。

理科の学習では、上流と下流、川幅、岸边と中央など、様々な場所や条件によって、川の様子がどのように異なるのかを学習しています。下の写真は、阿寒の川に出かけ、実際にボールを浮かべて場所による流れの違いを実験しているところです。



社会の学習では、世界の森林面積の減少や、「人工林の増加、自然林の減少」など、日本の森林の現状について学習していきます。下の写真は、自分たちが低学年の時に植えた木の苗木に、再会したところです。子供たちはどう感じたのでしょうか？



「思ったより伸びていない…」と感じた子もいたかもしれません。

山本さんは、「百年たてば、この中で1本残ればいいほうだ」とおっしゃったそうです。

残念ながら昔植えた木を発見できなかった子もいたようです。だからこそ、森を「育てる」難しさ、間伐や枝打ちなどの手間をかけて森を「守る」ことの難しさ、自然なまま残っている森の大切さに触れることができたのではないのでしょうか。



5年生の探検コースはかなり長いものですが、晴天に恵まれ、みんな最後までがんばりました。5年生のたくましさも見えましたね。

学校視察～義務教育学校の特色とは？（9月12日）

12日は、2つの学校が研修のため、本校の学習や活動の様子を視察に訪れました。

リーダーシップ・フォロワーシップ、ICTの活用、地域学や、プロジェクト学習など、本校の様々な特色を紹介しました。

訪れた先生方からは、「子供たちが自由に活動する姿がいいですね」「思ったことを率直に伝えられるんですね」「笑い声や歓声が溢れつつ、前向きに学ぶ姿がいいですね」などの感想があったそうです。

本校の「特色」は、目に見える物事だけでなく、そうした環境で学んでいる子供たちの「無形の力」にも宿っているのだということ、外側から見た先生方に気付かされたような気がします。そうした子供たちの姿を、大切に育んでいきたいと改めて感じました。



岩見沢市立第一小学校
津市立栗真小学校の
先生方が来校しました

